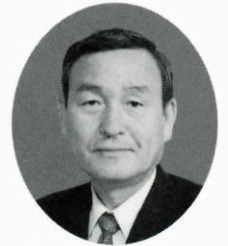


# 特別会計 18億円》

# 豊かな あいのまち

平成11年度の一般会計及び特別会計が、三隅町議会で審議され、3月24日、原案通り可決されましたのでお知らせします。



三隅町長  
辻野史朗

## 【施政方針】

私は、昨年6月18日に町長就任以来、「健康で明るく豊かなふれあいのまちづくり」をキャッチフレーズに掲げ、人づくり産業づくり、福祉と健康づくりに力点をおいて、日々、町長の職務に邁進いたしております。さて、21世紀が目前の昨今は、「西暦2000年」という全世界共通のキーワードのもとに、コンピュータや通信衛星によるリアルタイムでの多面的な情報システム化が更に加速し、世界中の人と物が行き交う時代がすぐそこまで到来しております。一方では、我が国固有の歴史や文化に育まれた、家庭の絆や地域連携などが徐々に廃れつつあり、過密や過疎、少子化や高齢化、更に環境汚染など新たな行政課題が生じてまいりました。

戦後50年を経た地方自治は、厳しい経済環境の下に、行政改革や地方分権といった新時代の行政ニーズに応える新しい仕組みづくりが必要となってきました。私は、町政の最高責任者として、三隅町の将来を誤ることのないよう、議会と相諮りながら町政の舵取りを行ってまいります。

さて、わが国経済は、金融機関の経営に対する信頼の低下、雇用不安などが重なって、家計や企業のマインドが冷え込み、消費、設備投資、住宅投資といった最終需要が減少するなど、極めて厳しい状況にあります。

さて、平成11年度の本町の予算編成に際して、私は特に次の点に配慮しました。まず、第一点は、継続事業の早期完成であります。総合運動公園整備事業や公営住宅建設事業などの債務負担行為の議決をいただいた事業、住民生活に密着した集落排水事業などの社会資本整備は、平成11年度の完成に向けて、予算を重点的に配分しました。

第二点は、私が就任後、昨年9月から10月にかけて開催しましたブロック別行政懇談会などで、住民各層からご要望のありました事業につきましては、ニーズの高いものを選択して予算化するともに、急を要する学校教育施設の補修箇所等につきましては、教育委員会の意見を聞いて、優先順位の高いものから予算化したしました。

第三点は、将来に及ぶ町の財政事情を考慮して、一般行政経費については、住民の方々の生活の安定と福祉の充実のための

## ―〈中略〉―

施策を重点的に推進するよう留意しながら、経費全般について徹底した見直しをおこない、その節減合理化に努めました。町の公共料金につきましては、減税など、社会経済背景を考慮し全て据え置きといたしております。この結果、町の一般会計予算の総額は37億8,327万1千円、前年度対比で18・3%の増、特別会計については、17億9,044万4千円、前年度対比10・7%の減、一般会計、特別会計を合わせた総額は、55億7,371万5千円、対前年度比で、3億7,075万2千円率にして、7・1%増の通年予算となっております。

さて、平成3年、前植木町長

時代に策定されました第2次三隅町総合計画は平成12年の目標年次まであと1年と迫り、平成11年度には、前町長から引き継ぎました大型継続事業がほぼ完結いたします。私は、平成12年度の第3次計画樹立に向けて平成11年度を構想策定の「熟成期間」と位置づけております。4月には統一地方選挙もおこなわれ、新しい議会構成となります。住民に開かれた町政を推進するために情報公開条例を制定し、主権が住民にあることを町政運営の根幹に位置付けて、「町の声」を十分集約し、21世紀の町づくりのビジョンに生かしたいと存じます。

